

副詞の「ちゃんと」に関する一考察

タップティム・ナッティラー

ปิ๊บนซงคราม・ราชภัฏ大学 人文社会学部

要旨

副詞の分類において副詞「ちゃんと」は様態の副詞に属するというのが一般的な捉え方であるが、本研究では今西(2004)と仁田(2002)が分析した「ちゃんと」の意味的・統語的特徴をもとに考察した。今西(2004)が意味定義した「話し手の持つ理想的・模範的な事柄に関する知識を背景として、ある事柄をこれらの知識との一致という観点から意味づける」という働きに同意した上で、氏と大きく異なるのは、「ちゃんと」が様態の副詞の一種である「話し手の主観的・評価的な捉え方のもの」に類することである。この点は仁田(2002)の「ちゃんと」の分類とも異なる。本研究では、「ちゃんと」は話し手の主観的・評価的な捉え方では、動きのありようだけではなく、ものごとのありようにも言及する用法を持つということを主張した。その主張の論拠として「ちゃんと」は否定の焦点にならない場合があること、名詞・形容述語修飾が可能であることを挙げた。

キーワード: ちゃんと、主観的・評価的に捉えたもの、否定の焦点、様態の副詞

An Analysis on Adverb CHANTO

Natthira Tuptim*

Faculty of Humanities and Social Sciences, Pibulsongkram Rajabhat University

Abstract

In general, CHANTO is classified as a type of adverbs of manner. This research analyzed CHANTO based on meaning and structure from the viewpoint of Imanishi (2004) and Nitta (2002). Imanishi defined the meaning of CHANTO as the adverb that expresses harmony between speakers' ideal and exemplary with an outside state of matter. This research agreed with this meaning but disagreed with the adverb type. CHANTO is an adverb of manner in the subtype of subjectivity and evaluation based on Nitta (2002), but in this research, CHANTO modifies state of matter as well as manner. Modifying noun and adjective predication while outside the scope of negative was investigated.

Keywords: CHANTO, Adverb of subjectivity and evaluation, scope of negative, Adverb of manner

*corresponding author's e-mail: ntuptim@hotmail.com

1. はじめに

日本語の副詞はきれいに分類することができないと様々な言語学者が述べている。本研究が取り上げる「ちゃんと」は動きのありように言及する様態の副詞であるということは一般に理解されている。しかし、本稿で考察した結果、話し手の主観的・評価的な捉え方のもとで動きのありようはもちろん、ものごとのありようにも言及する用法があることが分かった。このような話し手の評価を示す副詞には「ちゃんと」のほかに「確かに」もある。両副詞は相互の類義語になっている。「確かに」に関する研究は多く見られるのに対して、意味的に類似した「ちゃんと」に関する研究は管見の限りではほとんどないと言っても過言ではない。今西(2004)や、「ちゃんと」の意味と分類について述べている仁田(2002)の「副詞的表現の諸相」ぐらいである。そこで、本研究は今西(2004)の研究をもとに「ちゃんと」は主観的・評価的な捉え方をする副詞であることを述べていくことにする。また、ほかの様態の副詞に見られない否定の焦点外と名詞・形容詞述語修飾という統語的な特徴にも重点を置く。本研究は、Tuptim(2013)の「ちゃんと」という副詞がタイ語に訳されていないことが多いという調査結果から始められた。そして、「ちゃんと」には2つの意味があるということが本研究で明らかになった。従って、本研究は、少なくとも様態の副詞の特徴や「ちゃんと」の意味・働き方について、今後の日本語副詞研究や翻訳の分野などに貢献できると考える。

2. 「ちゃんと」の先行研究

2.1 今西(2004)の「ちゃんと」について

今西(2004)は、「ちゃんと」の意味・用法の中にいわゆる様態の副詞とは異なる意味・用法を

持つものがあることを述べている。特に意味論的側面から、いわゆる様態の副詞とも、また、陳述副詞や評価副詞とも異なるものであると指摘している。例を挙げると、(1)と(2)がある。

(1) 下宿へ帰ってみると、果して、母・・・で書いた封筒がちゃんと机の上に載っている。(今西2004)

(2) 咳払いをしてみると、ちゃんと咳払いの音がした。(同上)

今西(2004)は、(1)は「今夜は(手紙が)来ているだろう」と予想、(2)は「音をたてればそれに見合う音が聞こえる」との予想のもと、「予想通りに事態が推移すること」が理想的・模範的な事柄であり、話し手の背景知識と一致していることを副詞「ちゃんと」が表していると説明している。つまり、副詞「ちゃんと」の中には「話し手の持つ理想的・模範的な事柄に関する知識を背景として、ある事柄をこれら知識との一致という観点から意味づける」という働きをしているものがあるという。さらに、このような意味を持つ「ちゃんと」は様態の副詞ではないと今西(2004)は主張している。その主張の論拠として「ちゃんと」は否定の焦点にならないこと、名詞述語と共起可能であることを挙げている。

(3) えらい子だわ。それに母親にもちゃんと言わないでおくなんて。(今西2004)

(4) 海老原さんは「色と味はちゃんとレモンですよ」と話していた。(同上)

(3)において、「ちゃんと」は否定を示す「(言わない)」の意味範囲に入っていない。すなわち、(3)の「ちゃんと」は「言わないでおく」という動詞全体を修飾している。(4)において様態の副詞に見られない名詞述語「レモン」との共起である。この二点は今西(2004)が「ちゃんと」が様態の副詞

ではないという理由として挙げている。本研究では今西(2004)が分析した副詞「ちゃんと」の意味には同意する。すなわち「ちゃんと」の意味の中に「話し手の中で定めた基準や知識を背景としてある事柄をこれらの基準や知識との一致を表すこと」があることは認める。しかし、本研究が今西(2004)と大きく異なる点は「ちゃんと」は様態の副詞の一種であり、「主観的・評価的に捉えるもの」に類する副詞と位置づけるところにある。

2.2 仁田(2002)の「ちゃんと」の位置づけ

仁田(2002)は様態の副詞のタイプはきれいに分けることができなく、重なるところが多くあると述べている。その上で、様態の副詞のタイプを「動き様態の副詞」と「主体状態の副詞」に分けている。さらに「動き様態の副詞」の周辺的存在として「主観的・評価的な捉え方をした副詞」も挙げている。たとえば、

(5) 大村。「きゃーッ！」とハデに転倒する。
(仁田2002:82)

(6) 伴子が、自分を優しく見まもっているのを見た。(同上)

(7) 祖母ひとりでは犬や鶏までが不気味に鳴き始める。(同上)

などである。上記の例において「ハデに」「優しく」「不気味に」は話し手の主観的・評価的な捉え方で、動きのありように言及している。また、主体状態の副詞において主体の「意図性」のあり方や「心的状態」のありようはもちろん、主体の態度・振る舞いを評価的に捉えたものも存在すると述べている。さらに、林(2006)も仁田(2002)の影響を受け、様態の副詞について「様態を表す副詞的表現には、動きの様態を主に表すもの、

主体の状態をも表すもの、評価的な捉え方をしたものなど、様々な用法がある。」と述べている。様態の副詞の種類分けをまとめると、次のようになるであろう。

様態の副詞[動きの様態副詞、主観的・評価的に捉える副詞、主体状態副詞]

つまり、様態の副詞は動きのありよう、または主体の心理的状态はもちろん、主観的・評価的な捉え方にも関わりがある副詞も存在するのが両氏の主張である。実際、どんな動き様態の副詞が評価的な捉え方もできるかは個々に調べなければならない。本稿の分析対象である「ちゃんと」について仁田(2002:91)では、明快さ・正確さを表しながら、周辺的存在として、動きの勢い・強さに関わっているとされている。本研究では仁田(2002)が動き様態の副詞として扱ってきた「ちゃんと」は主観的・評価的な捉え方をしたものに分類することができると考えている。つまり、様態を表す「ちゃんと」には動きのありようを表しつつ、話し手の中で定めた基準や知識と照らし合わせて主観的・評価的な捉え方をするものがある。ここでいう主観的・評価的な捉え方とは、動詞が表す動きのありように対するものだけではなく、ものごとのありように対するものも含まれている。本研究の主張をまとめると以下のようになる。

[a]「ちゃんと」は様態の副詞の一種である「主観的・評価的に捉えるもの」に属すること。

[b]「ちゃんと」は話し手の主観的・評価的な捉え方で、動詞が表す動きのありようはもちろん、ものごとのありようにも言及すること。次章から、本研究の主張にあたって、「ちゃんと」の意味的・統語的な特徴を述べていく。

3. 「ちゃんと」の意味用法

まず「ちゃんと」の意味確認からはじめる。広辞苑(新村編2008)では、「ちゃんと」の意味として、『①すばやく。さっと。②基準に合致し、条件を十分に満たしているさま。「ちゃんと歩きなさい」や「ちゃんとした仕事」などがその例である。③確かに間違いのないさま。「ちゃんと払う」や「盗むのはちゃんと見ていた」などがその例である。』が挙げられている。②の意味は今西(2004)があげた意味とほぼ同じものである。仁田(2002)では「ちゃんと」は明快さ・正確さを表しながら、様態の副詞の周辺的存在として動きの勢い・強さに関わっていると述べている。仁田(2002)の定義は広辞苑の①と③の意味と同じだと考えられる。ここでまとめると、仁田(2002)と今西(2004)の意味定義は「ちゃんと」の語彙的意味から用いられ、様態の副詞らしい意味(仁田(2002)の定義)と主体の主観に関わる意味(今西(2004)の定義)が分けられているのである。実例を見ていくと、その傾向が見られる。

(8) そのとき、藤岡さんにちゃんと説明すればよかったんでしょうけど。(瀬川ことび『7』)

(9) うっかりしていたが、鏡の中では、右と左が逆に見える。したがって、美代子、右手でちゃんと書いたはずだ。(斎藤栄『謎の幽霊探偵』)

(8) の「ちゃんと」は「説明する」「書いた」のありようである明快さを表している。

(10) 食べ終わったのなら、ちゃんと手をあわせて『ごちそうさま』して。(はやみねかおる『文学そして五人がいなくなる名探偵』)

(11) 釣りあげてキャッチした魚は、ちゃんと料理して食べてやる。それは最低限のことだよ、供養だもの。(高野建三『旅と溪』)

(12) 普段は、病気かと思われるくらいにコーヒーを飲む。今日なんて、学校に行く前にはわざわざコーヒーマイルで豆をたくさん挽いて、作ったコーヒーを魔法瓶に入れていたよ。でも、自分の時間がちゃんと取れて、本を読める時には、できるだけ紅茶を飲もうとする。(橋本賢二編『楽しい時間とハッピーエンドー夢・遊び・スイーツ&ラブストーリーー』)

(10)–(12)の「ちゃんと」は「手をあわせる」「料理(を)する」「自分の時間が取れる」ことを間違いなく、正確に行うことを意味に加えている。

(13) 悪いことがあったなんて、わたしちっとも思っていない。雨もちゃんと降ってくれた。(青野聡『七色の逃げ』)

(13)において「ちゃんと」は話し手の捉え方で、ものごとである(雨が降ってくれた)ことの確かさに言及している。そのありよう、つまりものごとの成立の確かさは、話し手の主観的・評価的な捉え方を「ちゃんと」で表している。他の様態の副詞と比較してみると、「ちゃんと」は少し異なる特徴を持つ副詞と感じられるのである。例えば、

(14) この二日間、雨がしとしと降っている。(南城秀夫『リュウキュウ青年のアイビー留学記』)

(14)の「しとしと」は雨の降り方がどのようなありようであるかに言及しており、動きのあり方を限定し特徴づけている。そして、そのありようは降り方という動きの一つである。(13)の「ちゃんと」は動きに内在している様々なありようの一つを取り上げ、そのありように言及するというものではないと感じる。それは、ものごとである「雨が降った」ことが間違いなく、正確に起きているという意味が読み取れるのである。このような「ちゃんと」の意味用法は、話し手の捉え方によるところが大きいのではないかと本稿では考える。そのため、同じ

ものごとでも別の話し手がその雨の降ったことを「ちゃんと」ではないと捉えることがあり得る。

以上のように、「ちゃんと」の意味として、動きのありようと、ものごとのありようの2つが挙げられる。

4.ものごとのありようを話し手の主観的・評価的に捉えるものとしての「ちゃんと」

「ちゃんと」が話し手の主観的・評価的な捉え方で、ものごとのありように言及するという点はほかの様態の副詞と異なる。では、主観的・評価的な捉え方の副詞はどんな特徴を持つのだろうか。仁田(2002)によれば、主観的・評価的に捉える副詞は話し手の主観的・評価的な受け取り方・捉え方によって、ありようの側面を述べるという。

例えば、

(15) 荷物を持って深夜のお引越し。このころ日付が変わる。新しい部屋のシャワーはちゃんとお湯が出て(考えてみればこれが当たり前なのだが)、無事身体を洗ってベッドへ。(長谷川敦『趣味ラジコンマガジン』)

(16) 「親しき仲にも礼儀あり」のLINE マナー、あなたはちゃんと守れてる? (「いまどきの絶対常識最新「SNSマナー」なう」『アンアン』)

(17) いくら寝不足でも、おとうさんはちゃんと朝ご飯を作ってくれる。(赤木由子『分類なしおにいちゃんのヒミツは一日300えん』)

などの下線部が挙げられる。「ちゃんと」は動きに内在するありようというより、話し手の捉え方によって評価的に述べられる。同じものごとでも話し手が違えば、「ちゃんと」ではないということもあり得る。つまり、上記の例の「お湯の出方」

「マナーの守る状態」そして「朝ごはんを作ること」は表現する人によって、その人個人の持つ基準や条件にまだ合致していない場合もある。繰り返しになるが、「ちゃんと」は動きのありようを客観的に表すものではない。話し手の主観的・評価的な捉え方で表現されているのである。

今西(2004)において「ちゃんと」が様態の副詞ではないという論拠の一つとして、「ちゃんと」の名詞述語との共起が挙げられる。本研究ではそれが「ちゃんと」のものごとのありようを話し手の主観的・評価的に捉えるものであり、主観・評価に関わる副詞の一つの特徴でもと考える。例えば、話し手の主観・評価に関わる程度副詞は「だいぶ昔」や「ずいぶん子供」などのように名詞を修飾できる。また「びったりの服」のように様態の副詞でも話し手の主観的・評価的に捉えたことで「の」を伴って名詞修飾できる。従って、名詞を修飾できるということから、様態の副詞ではなくなるという今西(2004)の論拠は成り立たないと筆者は考える。では、どうして様態の副詞に類する「ちゃんと」が名詞述語を修飾できるのであろうか。これは本稿で挙げた [a] と [b] の主張に帰属するからと言える。以下より統語的な特徴について述べたい。

4.1 「ちゃんと」と否定

「ちゃんと」と否定の焦点は今西(2004)の一つの主張である。つまり、「ちゃんと」は様態の副詞なら否定の焦点になるが、今西(2004)が挙げた(3)のような文は「ちゃんと」が否定の焦点ではないという。しかし、実際は(3)のような用例は少なく、否定の焦点になる用例が多く見られた。まず、他の様態の副詞が否定の焦点になる用例と比較してから、(3)と同じ用例を分析する。

(18) 彼女は人の話をゆっくり聞かない人だ。

(19) 焼肉をちゃんと焼かないと、最悪なことがあるよ。

様態の副詞は基本的に否定の焦点となるはずである。(18)と(19)では「ゆっくり」と「ちゃんと」は動詞「聞く」と「焼く」の語彙的な意味側面から「速さ」と「整然さ」を修飾している。そのため、動詞「聞く」と「焼く」が否定されると、「ゆっくり」と「ちゃんと」も否定されることになる。さらに、多くの実例を調べていくと、ほとんどの「ちゃんと」の用例は、否定の焦点になる。例えば、

(20) 紗南ちゃん、これ食べたら、ちゃんと書かないと大変だよ。(高橋酔輔『こどものおもちゃガールズバトルコメディ6』)

(21) 主の手足やかからだなどにも歯をあてたり、軽いかみついたりする。小さいときは、歯もちゃんと生えていないから、かまれても痛くない。(中島眞理『イヌの大常識』)

(22) 食べたくなり行ってきました。最近会議弁当ばかり、たまに会議がなくても、昼休みがちゃんと取れずなかなかゆっくり食べる店に行けなかったんですねー。(Yahoo!『ブログ』)

(23) 記録した際ちゃんと保存されていない可能性があります。なので取り出そうとしてもちゃんと保存されていないので、取り出せないわけです。(Yahoo!『知恵袋』)

(24) しかし、お金の流れというか、商売の流れとしては、事務局を通るといのかたちで、ちゃんと納品がされないと、売った人間に支払いがされないとか。(青田吉弘『総記情報化社会対話集2』)

今西(2004)の(3)の例文を以下でもう一度取り上げる。

(25) えらい子だわ。それに母親にもちゃんと言わないでおくなんて。(今西2004)

(25)の「ちゃんと」は確かに否定の焦点にならないのである。これを論拠にし「ちゃんと」が様態の副詞と異なるものと今西(2004)は主張した。本研究で調べた用例の中に(25)と同じような文がある。それは(26)である。

(26) どく上機嫌で、すぐに切符や宿を手配してくれたが、身勝手な息子が帰った後、果してちゃんと忘れずに父親の自慢の浅草発日光行東武特別急行を褒めたたえたのだったか、どうだった。(柴田翔『記憶の街角遇った人々』)

「ちゃんと」は今西(2004)の(25)の「言わないでおく」と、(26)の「忘れずに(忘れないでいる)」ことを修飾している。つまり、「言わないでおく」「忘れないでいる」というありようはちゃんとしているという意味解釈が得られる。この解釈は話し手の主観的・評価的な捉え方で動きではないものごとのありように言及していると言える。小柳(2005)は、事態は何らかのあり方で存在し事態には成立と不成立、存在と非存在があるが、「不成立」と「非存在」は、その何らかのありようの一種であることが注意を要する点であると述べている。要するに、「言う」と「忘れる」というものごとの不成立というありようは、話し手の観点から「ちゃんと」起こっているという評価的な捉え方で言及すると考えられる。このことから、今西(2004)の分析に問題があると言わざるを得ない。

4.2 名詞・形容詞述語修飾の「ちゃんと」

「ちゃんと」は動きのありようを客観的に表すものだけではなく、ものごとの実現のありようをも話し手の評価的な捉え方で言及するという論拠は、名詞述語修飾用法にもある。ほかの様態の副詞は基本的に動きのありようの局面を取り上げ、それに対して語る。そして、かかる述語類は動詞である。しかし、「ちゃんと」の場合(8)-(11)のように動きはもちろん、ものごとの実現やあり方にも関わるものであり、動詞に限らず名詞、または以下のように取り上げる形容詞も修飾できるのである。具体例を見ていく。

- (27) ビルの高さは、ちゃんと634メートルでした。(今西2004)
- (28) 選手がかぶりものでグッズ販売。他の選手はちゃんと素顔でした。(Yahoo!『ブログ趣味とスポーツ/スポーツ』)
- (29) 甘さの種類が違うのか。ヨーグルトに自然な果実の甘さがよいようで…でも、ちゃんと完食。(Yahoo!『ブログ/生活と文化』)
- (30) ナギのことだからな。そういうの、あったらいいなと思っていったんだからな。八尋はちゃんと男の子だ。人形ではない。しかし、可愛い。(水無月さらら『少年アリスの憂鬱』)
- (31) 夜行である。何が起きても驚かないように一時間前に駅へ行く。指定券はちゃんと寝台車なのに、列車は普通のコンパートメント。(佐藤健『東欧見聞録民主化の嵐のあとで』)

上の例からいうと、「ちゃんと」は話し手の中にある基準や背景知識または先入観と照らし合わせて主観的に示している。(27)においてそのビ

ルの高さは、話し手の背景にある知識や情報通り634メートルの高さがあったと「ちゃんと」で評価されている。つまり、副詞「ちゃんと」はものごとのありよう(ビルの高さが634メートルあること)が話し手の持っている背景知識と合致したことを評価的な捉え方で表している。(28)の「ちゃんと」は選手の顔が間違いなく素顔になっていることを言及しており、(29)の「ちゃんと」はものごとのありよう「完食」に対する評価を示している。(30)の「ちゃんと」は話し手の中にある思い込みが実際に正しいかどうかを確かめており、(31)のものごとのありよう、指定券が「寝台車」であることが間違いなく正確だと主観的・評価的な捉え方で言及している。

これらの「ちゃんと」は様態の副詞の一種で、主観的・評価的な捉え方で、ものごとのありように言及している。この主張のもう一つの論拠は、実例を調べていくと数的に少ないとは言え、形容詞述語とも共起可能であるという点である。

- (32) ハル、今楽しい？って。どこにいるの、ちゃんとしてるの、だいじょうぶなの、全部の質問のあとに、ねえ、ちゃんと楽しい？(角田光代『文学キッドナップ・ツアー』)
- (33) だから、まとも戻ってきたんだ。ここにあるの“ひっかき文字”があるってことは、地図がちゃんと正確だということだよ。ほら、ロクスケは、おタエから古い地図を受けとって指さした。(木島始『知恵袋』)
- (34) ボクはこのタイプの炒め和えた感じの汁気の少ないものが一番好きです。ちゃんとシャキンと辛くてうまいです。(Yahoo!ブログ『生活と文化』)
- (35) 幼かった頃のお前への思いを。それを伝えていないなんて。年をとったものだ

から、ちゃんと自分が元気で、おまえが育てられるだろうかと心配で気遣いで、。。。(伊藤友宣『社会科学』)

小柳(2005)の言う「事態は何らかのあり方で存在する」ということはここでも当てはまる。つまり、(32)は事態またはものごとが「楽しく行われているかどうか」を「ちゃんと」で主観的・評価的に問いており、同じく、(33)は「地図が正しく書かれていること」を「ちゃんと」で主観的・評価的に捉えている。

前述のように「ちゃんと」は、動的なものごとはもちろん、静的なものごとに対しても、そのあり方を限定し特徴付けている。例えば、以下の「ちゃんと」は、静的動詞である「なる」、「ある」を修飾しており、静的なものごとに対して話し手の主観的・評価的な捉え方で言及している。

(36) 以外と使えますよー。ひらがな入力のままメアドを入力してF10 キーを押すとちゃんと半角英語になります。(Yahoo!『知恵袋』)

(37) 喘息にはちゃんと薬があるけど、あんたにはないからねえ…。(森真沙子『東京ゴーストストーリー』)

(38) 「とても遠慮深い数字だからね、目につく所には姿を現さないけれど、ちゃんと我々の心の中にあって、その小さな両手で世界を支えているのだ。(小川洋子『博士の愛した数式』)

以上のことから、「ちゃんと」の用法はものごとのありようを客観的に取り上げ、そのありようを話し手の主観的・評価的な捉え方で言及している。それはあくまでもものごとの存在のありよう、すなわち、(27)–(38)の下線部の所々に対する話し手の主観的で評価的な捉え方であり、文全

体に対するものごとではない。本研究の論と今西(2004)の論の違いはここにある。今西(2004)は、様態の副詞は動詞の語彙的な意味が表す動きに付随する諸側面のうちの一つを取り上げているという理由から、名詞と共に起できる「ちゃんと」は様態の副詞ではなくなると述べている。しかし、本研究の前半でまとめたように様態の副詞は、大きく3つに分けられる。それは一般の様態の副詞、主観的・評価的に捉えるもの、そして主体状態副詞である。その中で「ちゃんと」は主観的・評価的に捉えるものに分類されるべきだと考えられる。さらに、すでに述べたように「ちゃんと」は動きのありようだけではなく、ものごとのありようも主観的・評価的な捉え方で言及している。この「ちゃんと」の用法は、否定の焦点にならないことに対する論証にも適用できると考える。

5. まとめ

本研究はTubtim (2013) による「ちゃんと」がタイ語に訳されていないことが多いという調査結果から、「ちゃんと」に興味を持ち、「ちゃんと」についての研究を始めた。「ちゃんと」の意味においては今西(2004)の言う「話し手の持つ理想的・模範的な事柄に関する知識を背景として、ある事柄をこれら知識との一致という観点から意味づける」という点に同意する一方で、氏のほかの主張に疑問を持ち、「ちゃんと」は主観・評価にかかわるものとして様態の副詞の一種であることを論証した。また、「ちゃんと」を仁田(2002)が分類した主観的・評価的な捉え方のものに属するとしたが、本研究で取り上げた「ちゃんと」は、動きのありようを言及するものというよりも、ものごとのありようを言及するものに分類した。

今後の課題は、類義語である「きちんと」の相似・相違の観点から「ちゃんと」の意味的・構文的特徴について考察することである。

6. 謝辞

この研究論文は2013年10月の日本語文法学会第14大会 (The 14th Society of Japanese Grammar)で口頭発表したもので、コメントを下された方々にこの場をお借りして感謝の気持ちを表します。

7. 参考文献

- 青田吉弘(2002)『総記情報化社会対話集2』東京:ラッセル社。
- 青野聡(1988)『七色の逃げ』東京:講談社。
- 赤木由子(1988)『分類なしおにいちちゃんのヒミツは一日300えん』東京:ポプラ社。
- 伊藤友宣(2003)『社会科学』東京:青春出版社。
- 「いまどきの絶対常識最新「SNSマナー」なう」『アンアン』1907(2014, May 28)。
- 今西利之(2004)「副詞「ちゃんと」の意味記述一話し手による事柄への意味づけということ一」『熊本大学留学生センター紀要』8, pp.1-11。
- 小川洋子(2003)『博士の愛した数式』東京:新潮文庫。
- 角田光代(2003)『文学キッドナップ・ツアー』東京:新潮社。
- 木島始(2002)『山道あるき歌いだし』東京:創風社。
- 小柳智(2005)「副詞と否定一中古の「必ず」一」『福岡教育大学国語科研究論集』46, pp.35-50。

- 斎藤栄(1998)『謎の幽霊探偵』東京:集英社。
- 佐藤健(1991)『東欧見聞録』東京:毎日新聞社。
- 柴田翔(2004)『記憶の街角遇った人々』東京:筑摩書房。
- 新村出編(2008)『広辞苑』東京:岩波書店。
- 瀬川ことび(2002)『7』東京:角川書店。
- 高野建三(1991)『旅と溪』東京:山と溪谷社。
- 高橋酔輔(1997)『こどものおもちゃガールズバトルコメディ6』東京:集英社。
- 田和真紀子(2011)「程度副詞の評価性をめぐって」『宇都宮大学教育学部紀要』61, pp.25-36。
- 中島眞理(2005)『イヌの大常識』東京:ポプラ社。
- 仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』東京:くろしお。
- 南城秀夫(2005)『リュウキュウ青年のアイビー留学記』東京:文芸社。
- 橋本賢二編(2015)『楽しい時間とハッピーエンターテインメント・遊び・スイーツ&ラブストーリー一』大阪教育大学。
- 長谷川敦(2005)『趣味ラジコンマガジン』東京:八重洲。
- 林雅子(2006)「様態を表す副詞的表現をめぐって」『龍谷大学国際センター研究年報』15, pp.59-64。
- はやみねかおる(2004)『文学そして五人がいなくなる名探偵』東京:講談社。
- 水無月さらら(2001)『少年アリスの憂鬱』東京:白泉社。
- 森真沙子(1994)『東京ゴーストストーリー』東京:学習研究社。
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』東京:角川書店。

- Tubtim, N, T. (2013). The Study of the Methods and Types of Translating Onomatopoeia and Mimetic from Japanese to Thai. Japanese Studies Journal, 30(1), pp. 41-56. (in Thai)
- Yahoo (2005)「Yahoo!知恵袋」http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q143137409 (2015年11月20日アクセス).
- Yahoo (2008)「Yahoo!ブログ／生活と文化」http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_result (2015年11月20日アクセス).
- Yahoo (2008)「Yahoo!ブログ／趣味とスポーツ／スポーツ」http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_result (2015年11月20日アクセス).